

平成28年度2学期終業式式辞

校長 中村勝年

皆さん、おはようございます。

今日は、二人の生き方を参考に、幸運をつかむにはどうしたらいいかのお話をします。

一人目はこの人です。この人は、コンピュータのアップルの創始者のスティーブ・ジョブズです。マッキントッシュやiPhoneなど、革新的な製品を生み出す基盤を作った人です。

彼は、生まれてまもなく養子に出され、苦難の人生を歩んだ人です。生みの親は将来の教育の機会を与えたいと思い、自分の下での養育をあきらめました。彼は養父母の下でスタンフォード大学に通いますが、授業料が大変高額なために半年で退学することとなりました。彼はそのようななか、大学の講義に熱中したことがありました。カリグラフィーといって文字を美しく見せる技術です。これはカリグラフィーの一例で、「Merry Christmas」と書いてあります。文字の組み合わせや文字間隔を変えるなど、美しく文字を見せるにはどうすればよいかに熱中しました。10年後に最初にマッキントッシュを設計したとき、そこで学んだことを思い出し、全てを盛り込みました。

スティーブ・ジョブズは自身の成功の原因についてこのように述べています。

「先を見越して点と点をつなぐことはできない。今やっていることがいつか実を結ぶと信じる。たとえ人と違う道を歩むことになっても確信をもって自分の心に従うことができれば未来は全く違ったものになる」

このように、何かに熱中し、それがいつか成果が出ると信じ努力を続けることが大切です。何も願わず、何も熱中しなければ幸運はやってきません。

二人目はこの人です。この人は田中耕一さんといって、2002年にノーベル化学賞を受賞した人です。田中さんは京都にある島津製作所で働く研究者です。ノーベル賞をもらう研究者といえば普通、博士号を取得している人が多いのですが、田中さんは家庭の経済的な事情で大学を卒業しただけで就職し、自らを職人と称し、常に現場でこつこつと研究を続けてきた謙虚な努力家です。本人も含めて、日本の誰もノーベル賞をとるとは思っていませんでした。田中さんの母親は田中さんが生まれた後にすぐに亡くなったのですが、田中さんは自身の命と引き替えに生んでくれた母への想いを胸に、病気の早期発見に役立つ、タンパク質の質量を確認できる方法を発見しました。この発見により、血液や尿を検査器にかけるとガンなどの病気の兆候が分かるようになりました。病気になる前の健康な状態で発見できるため、病気にならずにすみます。また、新薬開発に飛躍的な進歩をもたらしました。

仕組みは、調べたいタンパク質に対して、レーザー光を当てて、タンパク質分子を飛ばして、そのときの速度を調べて質量を割り出しますが、普通は、レーザー光が強すぎるために、タンパク質は分解してしまいます。田中さんは、タンパク質を分解させないために、レーザー光を吸収する物質をいろいろ試していました。

大発見のきっかけは、吸収する物質の候補として、「間違えて」グリセロールとコバルトの二つの候補を混ぜてしまい、「どうせ捨てるのも何だし」と実験を行ったところ、今までにない不思議な信号を検出したことから始まります。このとき、検出したいタンパク質が破壊されなかったのです。田中さんの日頃からの努力と集中力がそれを見逃すはずがありませんでした。

田中さんはこのときのことについてこう述べています。

「自分もよく失敗し、意気消沈して、もうそこに触りたくないという心境になります。けれども、なぜ失敗したのかを追求しないとはいけません。たとえば、ある測定で異常な値が出たとき、装置のエラーということで済ませたら、新しい発見を見逃すことになります。」

このように重要な大発見は、偶然によって発見される場合が多くあります。

これを「セレンディピティ」といって、素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見すること。また、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけることです。

このような例は田中耕一さんの例にとどまらず、他にも多くあって、マジックテープであるとか、ペニシリン、X線の発見などがあります。

私も実験で大学時代に大きな失敗をしたことがあります。大事な実験材料の構造を調べるのに、ラマン分光法といって、レーザー光を当てたのですが、あまりにパワーが強すぎて、ことごとく穴をあけてしまったのです。数日は精神的にショックを受けましたが、幸運にも、そのことが高温時における構造の変化を知ることができ、結果的に興味ある成果を生み出すことにつながりました。失敗は成功につながる鍵にもなるということを身をもって知ることになりました。

セレンディピティについてアメリカの物理学者ジョセフ・ヘンリーは以下のように述べています。

「偉大な発見の種はいつでも私たちの周りに漂っているのだが、それが根を下ろすのは、十分待ち構えた心に限られる」

また、ノーベル賞受賞者ポール・フローリーが述べているように、重要な発見は、単純な偶然で得られるものではなく、「深くて広い知識」や「気持ちの十分な充実」が必要なのです。

今日は、幸運をつかむために、二人の人の例をあげました。一つ目は「何かに熱中し、それがいつか成果が出ると信じ努力を続けること」、二つ目は「セレンディピティ」、すなわち素敵な偶然を獲得するために、「日頃の努力や気持ちの充実など、十分な準備を怠らないこと」です。そのことが目の前を通り過ぎようとする幸運を引き寄せるために必要なことなのです。

今日述べたことは、科学技術の分野にとどまらず、多くの分野に普遍的にいえることではないかと思います。誰でも人生何度かチャンスがあるものです。それは、自分を高めてくれる人との出会いであったり、進学であるとか、新たな仕事への転機であったりします。そのチャンスをしっかりと自分の方へ引き寄せる準備を日頃から意識しておいてください。

皆さんには、今日、紹介した二人の人の生き方を参考に、これからの人生を逞しく生き抜いてほしいと思います。

以上で、二学期の終業式の式辞とします。